

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び  
高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 沖田憲司・札幌医科大学 消化器・総合、乳腺・内分泌外科・助教）

研究要旨

本邦におけるがん登録の現状としては、全国がん登録、主に外科系が中心として開始されたNCD、各学会における臓器がん登録などが混在しており、その有機的連携の在り方は未だに明らかではない。また、各領域で作成されているがん診療ガイドラインの連携体制も十分ではない。本研究では、データベース構築および利活用していく上での問題を領域ごとに明らかとし、その解決方法を検討することにより、今後の適切ながん登録体制の在り方を研究する。

A. 研究目的

各領域におけるが全国がん登録とNCD、臓器がん登録の有機的連携およびがん診療ガイドラインへの反映になどのデータの利活用に関して、各領域の問題点を抽出し、適切な在り方を研究することを目的とする。

B. 研究方法

現時点で、NCDと臓器がん登録との連携に関して、一定の問題があると認識している学会および研究会の代表より、その問題点を提示して頂き、共通の問題点などを抽出し、今後の方向性に関して討議を行う。  
（倫理面への配慮）

本研究において、特に倫理的に問題となる項目はない。

C. 研究結果

各領域におけるNCDの連携との問題点としては、臓器がん登録として必要な項目とNCDの登録項目の解離、同一疾患を複数の学会および研究会でカバーしている場合の扱い、また、最も大きな問題として資金の問題が抽出された。全国がん登録との連携に関しては、データ入力が重複しないように、登録項目及びフォーマットの統一、また、入力を行う登録師の養成および制度化が望まれた。また、データの利活用に関して、肝癌領域や肺癌領域では臓器がん登録のデータが本邦のガイドラインやTNM分類に反映されるなどの活用がなされているが、NCDとの連携を行うことにより、各学術団体でのデータ利用に制限がでることが大きな問題として抽出された。学術団体や個人として利活用しやすいデータ活用のシステムの構築、SEERの様に匿名化としてデータを提供する仕組みなどが求められた。

D. 考察

NCDは外科領域では悪性腫瘍の悉皆登録として大きな成果を上げているが、非手術症例の集積や、小児領域や婦人科領域など複数の学会および研究会がデータ登録に関与している領域、希少癌などにおいては、登録システム、また登録することによるメリットなどにおいて、多くの問題がある。全国がん登録に関しては、正確な予後情報が得られる一方、学会、研究会としてデータを得ることができないため、現時点では連携の在り方すら模索できない現状である。診療ガイドラインへの反映のためにも、より活用しやすいデータベースが求められている。

E. 結論

現在の体制では、全国がん登録およびNCD、臓器がん登録の有機的な連携は困難である領域が多いのが現状である。更なる法整備もしくはデータの取り扱いに関する統一された解釈が求められる。